

自己評価報告書

平成23年3月31日現在

機関番号：42102

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2008～2011

課題番号：20520198

研究課題名（和文） 使者文学の基礎的研究—戦国・島原の乱を中心として—

研究課題名（英文） A Basic study of Messengers report :Focus on the Senngoku Shimabara Rebellion

研究代表者

武田 昌憲 (TAKEDA MWSANORI)

茨城女子短期大学・国文科・教授

研究者番号：00221375

研究分野：日本中世軍記

科研費の分科・細目：文学：日本文学

キーワード：島原の乱 キリシタン一揆 松平信綱 近世軍記 使者 上使

1. 研究計画の概要

天草・島原の乱のうち、特に原城に籠った一揆を幕府軍が攻撃を行うに当たり、各藩が使者を送ってその状況を知り、藩で対処しようとする段階での、使者の報告を探るものである。使者には幕府からの上使も含む。この結果、島原の一揆が単なる九州の諸大名による地域的鎮圧＝百姓一揆ではなく、広く全国的な諸大名の規模で展開された大きな事件で会ったことを指摘。次にこの島原の乱の使者を送りこんだ諸藩の状況を出来る限り探り、その作品について探し、また、その作品の文学的評価を加えようとするものである。同時に単なる戦争の見聞記ではない新しい作品ジャンル—使者文学—を提唱しようとするものでもある。

2. 研究の進捗状況

- (1) 目下のところ、遅ればせながら進捗している。諸藩の使者の名が東北大学図書館・狩野文庫の『島原記録』四巻四冊の中の第四冊目の「島原へノ使者並諸手手負討死留」は、『諸国より使者之次第』（『原史料で綴る 天草島原の乱』収）と共に今後の研究促進に繋がるものと期待される。
- (2) 上使も使者の一人としてその記録を文学的に評価中である。

3. 現在までの達成度

- ①当初の計画より少し遅れている
(理由)

写本の作品の閲覧に時間がかかる。個人研究なので予想以上に手間がかかる。作品の発見に予想以上に時間がかかる。実際に閲覧した作品は当初予想した「使者」の活躍がなく、又、使者が登場しても、その文学的評価に手間取っている。使者の生の記録(報告)が無く、藩史や県史等に頼らざるを得ない状況であるが、その藩史の存在も限られる。

春期に閲覧予定であったが、東北関東大震災の影響で予定が変更となった。また、資料が、震災によりデータ取り出しに支障を生じ(落下と衝撃によるパソコンの故障)、今後の研究に遅れが予想される。

4. 今後の研究の推進方策

- (1) 島原の乱の研究のために、研究拠点を島原に近い九州の大学に移し(研究代表者所属の研究機関を変更する)、研究の効率化を図ることとした。
- (2) 各都道府県史の島原の乱の記事を調査し、その広範囲性を確認。全国的なレベルの事件として再評価するきっかけを作る。
- (3) 刊行された諸藩の動向を調査し、島原の乱の活動を調査する。
- (4) 九州地区の諸藩の活躍を時間が許せる限り調査。その中身は自藩・他藩の使者の抽出にある。
- (5) 島原の乱関係の作品の紹介と本刻等に努める。
- (6) 以上のことを踏まえて、最終研究年度である平成23年度の研究成果報告書を作成する。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者
には下線)

[雑誌論文] (計 3 件)

① 武田昌憲、島原の乱の使者の戦い (そ
の 1) 一毛利藩の場合

『茨城女子短期大学紀要』36 集 2009 年
査読無

② 武田昌憲、上使の行程一板倉重昌と松平
信綱の場合 (覚書) 『茨女国

文』22 号 13p~18p 2010 年 査
読無

③ 武田昌憲 島原の乱の使者の戦い (その
2) 一紀州藩・仙台藩の場合 『茨城

女子短期大学紀要』38 集 2011 年 3
月発行予定であるが、震災により遅れて
いる

査読無

[学会発表] (計 件)

[図書] (計 件)

[産業財産権]

○出願状況 (計 件)

名称 :

発明者 :

権利者 :

種類 :

番号 :

出願年月日 :

国内外の別 :

○取得状況 (計 件)

名称 :

発明者 :

権利者 :

種類 :

番号 :

取得年月日 :

国内外の別 :

[その他]